

2015年2月23日 日本テレビ 定例記者会見**《 要旨 》****1. 視聴率動向と編成戦略****・ 視聴率データ**

先週も三冠王を獲得した。三冠王獲得は4週連続で、2014年度では38回目、2015年になってからは6回目となる。

日本テレビの全日、プライム、ゴールデンそれぞれの視聴率が前年同期よりも高くなっていることは、少しずつ番組の勢いが出てきている結果ではないかと考えている。

しかし、ライバル局も創意工夫し、面白い企画にチャレンジしているので、当社もより視聴者の皆様に支持されるような番組を作っていきたい。

・ 4月期改編

4月期の改編率は、全日5.6%、プライムタイム10.4%、ゴールデンタイム6.2%である。

一番のポイントは、日曜日の22時30分から、3枠目となるドラマをスタートさせることである。

当社はレギュラーのドラマが2枠しかなく、予てよりストックコンテンツという観点から量的に整備しなければならないという思いがあった。ドラマは「Hulu」などの動画配信だけではなく、アジアを中心とした海外展開も含めた意味で、より汎用性が高いコンテンツだといえる。

水曜ドラマは「Dr. 倫太郎」、堺雅人さんが当社のドラマで初主演となる。土曜ドラマは多部未華子さん主演の「ドS刑事」。日曜日の新ドラマ枠では「ワイルド・ヒーローズ」というスリルと感動のアクション・エンターテインメントをお送りする。

また、土曜日の夜11時から「マツコとマツコ」をスタートさせる。昨年末に特番で放送し、非常に好評だった番組であり、マツコ・デラックスさんのアンドロイドとマツコさんご本人で進行していく。

今後もタイムテーブルを重視し、視聴者の皆様に日本テレビの視聴習慣を付けていただくという方向性を4月期以降も貫いていく。

2. 営業状況

・放送収入

1月はタイムセールス、スポットセールスともに前年をかなり上回ることができた。特にスポットは前年同月比1割増という結果であり、東京キー局1月スポット売上の中で歴代1位となった。視聴率が全体的に好調であることをスポンサーの皆様に評価いただけたのではないかと考えている。

2月はエリア全体で100%に届かない見込みで、3月も厳しい状況が続くことが予想される。

・放送外収入

2月21日（土）から「ルーヴル美術館展 日常を描く一風俗画に見るヨーロッパ絵画の真髄」が始まった。金曜日の開会式、内覧会にはプレスも含め、約1500人が来場、一般公開後の入場者数は土曜日と日曜日合わせて1万2,019人と、まずまずのスタートを切った。フェルメールを始めとするルーヴル美術館の珠玉の作品が展示されているので、さらにPRを強化し、より多くの方々にご来場いただきたいと思っている。

日本テレビとルーヴル美術館の間では、今回の美術館展を1つの契機として、2018年から4年に1度、計5回大規模な「ルーヴル美術館展」を開催することが決定している。今後20年かけて実施する大きなプロジェクトのスタートにあたる美術館展であり、しっかりと取り組み、必ず成功させたいと思っている。

また、昨年11月から「チームラボ 一踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地ー」をお台場の日本科学未来館で開催しているが、大変好評で入場者数が伸びている。現在、総入場者数が22万人を超え、1日平均約3,000人という状況であり、当初の会期を2か月延長し、5月10日までとした。

映画は、当社が製作幹事である映画「風に立つライオン」が、3月14日に公開される。さだまさしさんの曲をモチーフにした作品で、大沢たかおさんが主演。社内の試写では多くの社員が感動し、涙を流していた。是非、多くの方々にご覧いただけたらと思っている。

3. その他

・タイムシフト再生率

当社の番組でいえば、確かにドラマの再生率が高いが、注目されたバラエティー等も上

位に入っている。今年 1 月からデータを頂いているが、今すぐ営業活動に役に立つものではなく、あくまでも参考的な指標であり、今後どのように活用していくかを検討していく。

・Netflix (Netflix)

アメリカの映像配信大手である「Netflix」が、今年の秋から日本での事業を開始する予定だと聞いている。日本には既に SVOD 事業者は多数あるので、そこに「Netflix」が登場することで、SVOD のサービスがさらに注目され、市場が活性化する可能性はある。日本テレビグループが運営している「Hulu」もそのような市場の動きを自らの事業に活かしていきたいと考えている。

(了)